

学生支援の現場から

◆宮城工業高等専門学校  
「学生の社会力」を育成する学生支援

宮城高専は、一〇〇万都市仙台に隣接する緑豊かな名取市の田園地帯（野田山）に展開している（図1）。地域とともに歩む本校の立地名を冠した「学生の社会力を育成する野田山プロジェクト」地域に開かれた総合的な学生支援システム―注）は、幅広い年齢層の学生の発達度を踏まえた適切な学生支援により社会力のある学生を育成し、地域

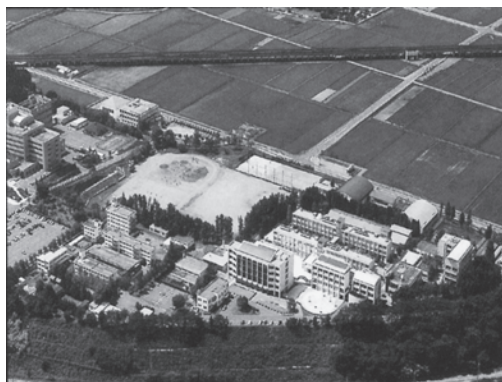


図1 野田山に位置する宮城高専 隣は県立がんセンター

社会へも貢献しうる技術者のタマゴとして社会に送り出すことを目指している。

このプロジェクトの全体の構成は図2に示すとおりであり、それらは並列的に進行する。現在まで着実に実績を積み上げてきているそれぞれの内容について以下に概要を述べる。

1. 自立支援プログラム

①ノダサーブ 在校生、卒業生、入学希望者等と学校との間の双方向のやり取りが可能な情報発信システムであり、通常および緊急時の連絡、メールマガジンの発信、学生および地域社会からの要望の集約などを行う（図3）。

②学習サロン 低学年の学習不振者向けの学習支援であ

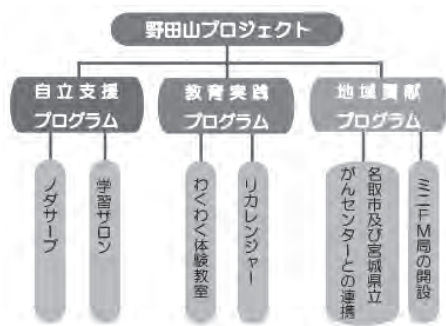


図2 野田山プロジェクトの構成

り、専攻科または準  
 学課程上級生を中  
 心とした学習アドバ  
 イザー（教員からの  
 推薦を中心に選出）  
 により行う。

## 2. 教育実践プログラム

### ① わくわく体験教室

本校教職員が行って  
 いる小・中学生を対  
 象とする「わくわく  
 体験教室」への参加  
 を通じて、学生の教育実践への関心を高めつつ社会貢  
 献の意識向上を図る。

### ② リカレンジャー 移動科学実験車の出前による小・中

学生向け理科学習支援に学生が参加する。①と同様の  
 効果が期待できる。

## 3. 地域貢献プログラム

### ① 名取市および宮城県立がんセンターとの連携 本校は

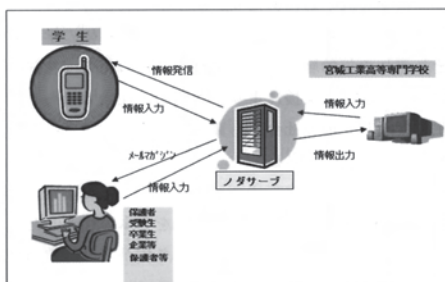


図3 ノダサーブ概念図

名取市の指定避難所であること、また県立がんセンタ  
 ーが本校西隣に位置することから、相互に協力し合い  
 ながら避難訓練等の防災対策を実施するとともにボラ  
 ンティア精神の涵養を図る。また名取市との連携によ  
 る緑化事業の一環として、本校北側斜面に二〇〇mに  
 及ぶシバザクラの植え付けを行う。

② ミニFM局の開設 本校の教育活動を地域に積極的に  
 発信する。アマチュア無線とともに防災時のライフラ  
 イン確保の一役を担う。

平成二〇年度にはこれら全ての取組を実施したが、その  
 過程で学生の人間力、社会力は確実に高まっていると実感  
 している。この三月には、学外からパネリストを招きシン  
 ポジウムを開催するなど全体的な点検・評価を行った。今  
 後これらの意見を取り入れながら学生支援のあり方を検討  
 し、一層充実した内容としつつ継続を図っていきたい。

注) 文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プロ  
 グラム」選定取組（平成一九〜二〇年度）プログラム担当  
 者 飯田清志